

緑と清流のまち

わかさ 議会だより

第163号
平成30年
5月号
WAKASA TOWN



議会事務局のアドレスへ

住民の安全を目ざし

若桜町消防出初式

- P2~3 新議員の抱負
- P4~5 平成30年度 当初予算
- P6~7 平成29年度 補正予算
- P8~10 一般質問Q&A
- P11 **議会構成**
- P12~13 平成30年度 補正予算
- P14~15 審議結果・討論
- P16 わたしの想い(太田さん)

くりへの抱負

ごあいさつ



議長 川上 守
再度議長の要職に就くことになりました。期

今回、議員各位のご推挙により、再度議長の要職に就くことになりました。期を重ねるごに議員としての職責の重さを感じており、住民の負託に応えるべく誠心誠意頑張っております。今期議員は、8人が現職、2人が新人となりました。現職が多く、経験した知識が生かされ、継承すべきは継承しながら、新しいことに取り組みます。前期目標としていた、毎月定例の全員協議会・

新議員の抱負



中尾 理明
元気で長生きできる町でなければなりません。そのため、今

高齢者の多い若桜町は、高齢者がいつまでも元気で長生きできる町でなければなりません。そのため、今以上に介護、医療、福祉を充実させることが必要です。高齢者が暮らしやすい町は、子どもも若者も住みたくなる町ではないでしょうか。私は、子どもからお年寄りまで安心して住み続けられる若桜町を創るため、全力で頑張ります。

活気あふれるまちづくり



副議長 孝行 前任

3期目の議席をいただいた責任を重く受け止めて日々を過ごしています。過去8年間の経験から、良いことは継続していき、より良くなることを考えたことは意見し、実行に移し、更に発展させていきます。議会は、議論する場ではありません。他の議員の意見も尊重しながら、しっかりと議論し、建設的な提案が出せる議会にしていきたいと考えます。この若桜町が活気にあふれ、町民が若桜町の良さを自ら発信できるような町になるよう、気を引き締めて議員活動に取り組みます。今後ともご指導ご鞭撻をよろしくお願い致します。

民から町への橋渡し



山本 晴隆
三度目の議席をいただき改めて身の引き締めを思っています。今期も『住んで良かったと実感できる町づくり』を目標に努力します。

人口減少に歯止めが掛からない現実と向き合い、町の状況を把握しながら公共交通の見直し、耕作放棄地問題、特産品開発、観光資源の有効活用など、様々な課題について積極的に意見・提案・行動していきたいと考えています。住民の皆さんの声を聞きながら、行政と議会で議論しながら住民サービスが少しでも良くなる為に努力し精進してまいります。

機能する議員をめざして



小林 誠
「若桜町を元気にしたい！」これが私の議員に立候補した目的です。特に遊休、荒廃農地を活用したエゴマ栽培、エゴマを使った商品開発。

また、駅周辺の公園化で交流人口の増と、長時間滞在していただき経済効果を生み出す仕組みなど、執行部と連携して進めて行きたい。今後益々、財政の厳しい状況の見える中、県会議員、国会議員との人間関係の強化を図り、協力、支援体制が頂けるように努めて行くことも町議会議員の義務と考え頑張っております。



新議員 町づ

主役は皆さんです。



山本 安雄

無投票の町が多い中、選挙となった若桜町。2期目の議席を頂き、皆様の関心の高さに答えるべき、1期の経験と反省を基に町政発展のために「議論する議会」を目指して議会活動に取り組みます。若桜町の自然環境を活かし、農林業をはじめ、産業の振興と、この環境を有効活用し「魅力ある町」となるよう皆様と共に取り組みます。決して大きな町ではありませんが、それぞれ地域の課題は其々です。皆様の声を聴かせてください。傾聴・報告・相談から議会活動を始めます。

一緒に考え 行動いたします



君野 弘明

この度、町政に送って頂き感謝申し上げます。高齢者である私だからできることは、「安心・安全・快適・便利を実感する町」を創るために、何を優先すべきか町民の皆様のご意見をお伺いし、一緒に考え行動いたします。焦らず諦めず、課題の解決に向け誠心誠意取り組んでまいります。健康で明るい町民の笑顔がみたい。若桜町のために力を尽くします。

夢を持てる町づくり



山根 政彦

皆様方の温かいご支援をいただき、2期目の議席を頂きましたことを、深く感謝申し上げます。少子高齢化、人口減少は避けては通れない現実ですが、日頃なかなか気付かない「若桜町の力」「地域の力」を引き出し、そして活かすことにより、将来を担う子どもたちや、若者たちが夢を持てる町づくり、またお年寄りが安心して、はつらつと暮らせる町づくりに、町民の皆様のご意見を聞きながら微力ではありますが、一生懸命頑張りますのでよろしく申し上げます。

安心して住める 活気ある町づくり



梶原 明

この度、町議会議員として活動できる機会を頂き、責任の重さを改めて感じています。本町は、生活するには良い環境の町ですが、少子高齢化をはじめ、将来の「不安」の声を聞かせていただいております。町民の皆様のご意見を聞きながら、地域の課題を的確に捉え「安全」「安心」で活気ある町づくりのために、ひとつひとつの問題に取り組んでいきたいと思っております。微力ではありますが、奮励努力してまいりますのでよろしく申し上げます。

活力ある町づくり



青木 一憲

この度、再度議席をいただき感謝申し上げます。人口減少問題、公共交通の充実、耕作放棄地の解消など、町を取り巻く課題は沢山あります。今期も、町民の皆さんのご意見を聞きながら、「活力あるまちづくり、安心安全なまちづくり」を、一層良かっと思えるまちづくりを、一つでも多く住民の皆様が実感していただくよう、一生懸命頑張りますのでよろしく申し上げます。



本会議場

当初予算 35億円

注目事業は これだ！



敬老会の様子

敬老事業

昨年度中止になった敬老会を、
今年度実施する

459万円

若桜鉄道 観光列車「昭和」 いよいよ 運行へ



改良中の糸白見2号線

町道新設改良事業

町道の改良工事等を行い、
安全な交通環境を確保する(7ヶ所)

7969万円



観光列車「昭和」

若桜鉄道対策事業

行き違い施設の整備を行い、
利便性の高い運行を目指す

1億1700万円

格

3月定例会

(平成30年3月9日～23日)

依存財源 (85.8%)
30億430万円

自主財源 (14.2%)
4億9570万円
うち町税 **2億3450万円 (6.7%)**

議員全員で構成する「予算審査特別委員会」を設置し、平成30年3月15日から7日間にわたり、審議しました。

委員長 山根 政彦 議員
副委員長 中尾 理明 議員

平成30年度 一般会計



建設中の町営住宅

町営住宅管理事業

若葉団地に新規2棟4戸を建替する

6080万円

骨

特別会計

事業名	予算額
国民健康保険事業	4億293万円
介護保険事業	6億6010万円
後期高齢者医療事業	5765万円
簡易水道事業	1億9693万円
公共下水道事業	2億2691万円
農業集落排水事業	1億1920万円
赤松団地造成事業	387万円
財産区造林事業	1049万円
索道事業	2156万円
住宅新築資金等貸付事業	180万円



建替られる管理棟

町営スキ一施設管理事業

管理棟を建替し、集客促進を図る

1億5600万円

一般会計補正予算 3711万円 減額

一般会計
総額
34億9488万円



氷ノ山集客促進事業費

原因不明の火災による復旧工事費が
安価でできたため

▲854万円



児童福祉施設費

臨時保育士を募集したが採用しなかったため

▲358万円



農業振興費

当初の見積もり額より安価でできたため

▲2050万円

な
業

平成29年度 2億



賦課徴収費

地籍調査登記事務の遅れによる減額

▲291万円



道路新設改良費

国、県の交付金配分が少なかったため

▲3807万円

主
事

特別会計

事業名	増減	総額
国民健康保険事業	▲4237万円	4億8800万円
介護保険事業	▲2309万円	6億2779万円
簡易水道事業	17万円	3億6176万円
公共下水道事業	▲7743万円	2億2178万円
赤松団地造成事業	▲330万円	50万円
財産区造林事業	▲480万円	177万円
索道事業	▲140万円	8123万円



林道事業費

用地交渉難航等により減額

▲5142万円

詳しくは

若桜町ホームページ→各課のご案内→議会事務局→会議録

3月議会定例会の一般質問は、3月20日に行われ、3人の議員が町政の課題について質問しました。

質問の要旨と町長の答弁は、質問を行った議員が要約して掲載しています。



質問者

中尾 理明 議員
前住 孝行 議員
山本 安雄 議員

福祉バスの提案

高齢者の通院等用事に 適した福祉バスの運行を 町営バスに小型車の 活用デマンド便を検討する



中尾 理明 議員

Q 町営バスに対して、時間帯、家までの距離、バスの小型化など高齢者の皆さんが利用しやすい体系への検討を始めるのと述べられました。私は、高齢者が医療機関からの帰宅時、待ち時間が少しでも少なくなるように利用でき、自宅近くまで運んでもらえる、福祉バスが求められていると考えま

す。また、銀行や役場へ出かけるなど気軽に利用できるものを考えたいですが、所見を伺います。

A (町長) 選挙戦で、町民の方からバス停と自宅の間の移動についての要望を多く受けました。バスの小型化や高齢者が、利用しやすいような対策が必要と考えます。自宅から目的地まで運行を行う交通手段として、デマンド便が考えられます。町営バスも、現在の中型バスと小型自動車を組み合わせ、乗客の少ない昼間の便をデマンド便化し、バスを小型化することにより、今

まで運行できなかった狭い道の運行が可能になり、利用者の自宅から目的地まで運行を行い、高齢者のニーズに合った形になり、福祉バスにも利用できるよう考えていきたいと思っています。

子ども医療完全無料に
子育て支援策として無料化を
困難だが、子育て世代に聞く

Q 子どもの医療費助成は子育てへの重要な施策です。これまでは、子どもの医療費助成について自治体間の公平を名目に国庫負担金等の減額を続けてきましたが、地方6団体の強い国への要望もあり、平成30年度からこのペナルティーを未就学児分のみ廃止することになりました。この新たな条件も生かし、子どもの医療費の完全無

料化に踏み切るべきではありませんか。

A (町長) 今回の見直しに係る影響額は全国で56億円と言われておりますが、本町への影響額は、平成28年度計算で約8万7000円です。一方平成28年度の子ども医療費は182万円でした。国の減額だけでは完全無償化するには財源不足となります。特別医療費助成制度は県と共同

による県内市町村統一のルールで運用しており、子ども医療費の完全無償化を実施することとは、今は難しいと考えています。

Q 子ども医療費完全無料化に踏み切った自治体は県内にはないと思いますが、若桜町は前小林町長のもとで保育料無料化を全国に先駆けてやったという誇

るべき実績があります。これに続く支援策となるものです。これには県の理解も必要ですが、本当に若桜が子育てに適した町として、保育料無料化に続く制度の前進につながるものです。子育て支援強化の観点で再度の所見を伺います。

A (町長) 子育て施策の1つになることは確かだと思えます。新年度、新しい子育て世代の方の意見を聴く会も立ち上げる予定です。その中で、若い世代の皆さんがどう考えているか聴きながら、取り組みを考えていきたいと思えます。



入園式の様子

Q 一般質問 A



前任 孝行 議員

行政改革

住民協働のまちづくりのため、行政改革大綱の制定を町民の意見を伺い、早期に取り組みたい

Q 本町は、単独存続を選択以降、行政改革に積極的に取り組んできたと認識しています。しかしながら本町の「行政改革大綱」である自立促進計画は平成24年に期限切れになったままです。行政運営の指針でもある行政改革大綱を早期に策定し、行政と住民が一体となって効率的で効

A (町長) 町の方針として行政改革大綱を示し、皆さんの理解と協力をいただくことが重要です。皆さんの意見を聞きながら、新年度には、早期に策定に向けて取り組みたい。そして、業務改善や職員

の意識改革を進め、町民の方々と、一体となってより効率的な行政運営と健全な財政運営の推進、持続可能な住民サービスの提供を目指したいと思っています。

Q 町民に対する補助制度や支援制度などについては、受け手の考え方や気持ちを大切に、予算提案前に議会の意見を聞いていただければ、より町民の立場に立った施策につながるかと考えますが、どうですか。

A (町長) 住民の立場に立った補助制度こそが、住民のための生きたものと考えます。補助金等の要綱の制定や一部改正を行う場合は、事前に執行部案を提示し、定例の常任委員会等で協議させていただきます。

Q 行政の透明性について近年、交際費の使用がホームページ等で公表される自治体が増えていきます。町長の交際費を公表されるつもりはないですか。

A (町長) 県内では鳥取県を初め、12市町村が市町村長の交際費をホームページで公開しています。支出基準や公表基準を設け支出対象や区分、公表内容などを定めて公表に向けての検討をしていきたいと思えます。

所信表明

病後児保育はどのようにつなぐのか
町内事業所と連携して

Q 病児・病後児保育は、実施できることから取り組みたいという

旨をお聞きしました。具体的にはどこで、また医療機関との関わりをどのようにして実施されるのか、所見を伺います。



病後児保育の態勢が待たれるわかさこども園

A (町長) わかさこども園の現在の調理室を改修し、病後児保育の専用スペースを確保することとしています。わかさこども園の病後児保育室への看護師の派遣について依頼しているほか、旧寄宿舎を活用して訪問看護や居宅介護事業などを実施しているせきよう在宅総合支援センター「レインボーさくら」での病後児保育の実施を検討していただくよう、お願いしています。また、病児保育の実施については、小児科医が不在であるため、町内での実施は現在難しいと考えています。

Q 一般質問 A

所信表明について

高齢者が安心・安全なまちづくりの拠点が必要では
地域の主体的な取り組みには支援する



山本 安雄 議員

Q 「高齢者の皆さんが健康で生きがいを見つけないが、安全・安心に暮らせるまちづくり」について具体的にお願いします。

A (町長) 65歳以上の方対象に、介護予防日常生活圏域ニーズ調査では、介護や身の回りの世話が、必要となったときに暮らしたい場所は、出来る限り

自宅でも暮らしたい。そして、健康で暮らす為に行いたい事は、「畑仕事や人との交流」との回答が多く、外に出たり、仲間と共に過ごすことが大切だと思っ

ている。自らの意思で相互に連携し、地域のコミュニティ活動が推進できるよう支援をしたい。

Q 「皆さんの声を聴いて課題解決に向けて取り組む」と表明されたが、どのような形で声を聴くのか伺います。

A (町長) 対象を「高齢者の方」、「子育て世代」などに絞ったりしながら、多くの集落に

出向き皆さんの声を町政に活かしたい。

Q 複数の自治会住民が集い意見交換することで、課題解決の糸口となり、気楽に集まれる拠点が必要と思うが考えを伺います。

A (町長) 主体のない行政主導の自治組織は、やらされているという義務感だけが残る危険性がある。地域主体の取り組みであれば可能な限り支援をする。

森林の公益的機能について
水力発電研究に
森林環境譲与税
(仮称)を
困難でないか他の
補助金などを
検討したい

Q エネルギーの地産地消について、昨年9月一般質問した小水力発電の可能性について、研究を進めていくと答

弁があった。その後の進捗を伺います。

A (町長) 自然エネルギー活用検討推進協議会を設立し、勉強会を実施した。今後は、導入可能場所、運営、管理の主体などを検討し、自然エネルギー活用先進地域をめざして検討する。

Q 協議会の運営は、具体的にはどのようなことが伺えます。

A (ふるさと創生課長) 専門家などの会議を設置し、具体的に検討したい。

Q 森林環境譲与税(仮称)が平成31年度から市町村に交付される。森林が、公益的機能を発揮する水力発電研究の財源とならないか伺います。

A (町長) 国は、森林環境贈与税について、所在者不明森林や自然条件が悪い森林などを、市町村が管理する新たな制度を創設することとしている。
水力発電については、鳥取県地域エネルギー社会推進事業補助金などを考えている。



水力発電に利用できないか

議会の構成決まる

議長 川上 守
副議長 前住 孝行

総務産業常任委員会

委員長 山本晴隆
副委員長 前住孝行
委員 小林誠
委員 山本安雄
委員 山本安雄
委員 君野弘明

教育民生常任委員会

委員長 青木一憲
副委員長 山根政彦
委員 山根政彦
委員 中尾理明
委員 梶原明
委員 川上守

議会運営委員会

委員長 山根政彦
副委員長 前住孝行
委員 前住孝行
委員 山本晴隆
委員 青木一憲

議会だより調査特別委員会

委員長 梶原明
副委員長 君野弘明
委員 山本安雄
委員 山本安雄
委員 青木一憲

議会選出監査委員

山本安雄

鳥取県東部広域行政管理組合議会議員

川上守

鳥取県後期高齢者医療広域連合議会議員

前住孝行

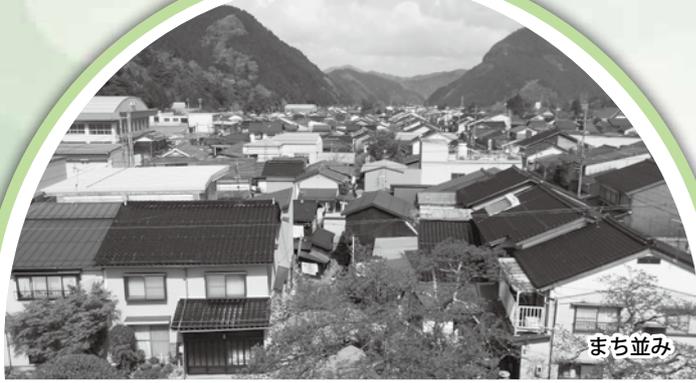
公共交通調査特別委員会

委員長 川上守
副委員長 前住孝行
委員 前住孝行
委員 議員全員

補正予算

7656万円 追加

総額 36億7656万円

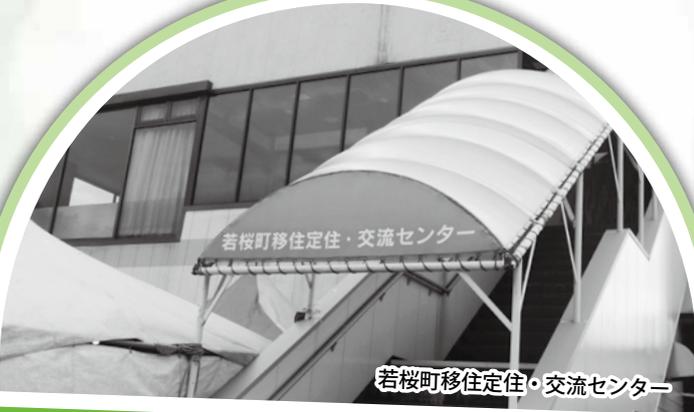


まち並みづくり推進事業

駅周辺及び本通りを三次元データ作成し
整備計画の参考にする(新規事業)

540万円

安心・安全な まちづくりに 期待!!



移住定住促進事業

課題解決促進のため若桜版集落支援員を
配置する

36万円



商工振興事業

小規模住宅改修費に補助する

500万円

付

第2回臨時会

(平成30年4月9日、10日)

平成30年度

一般会計 1億

注目事業は
これだ!

さらなる
子育て支援に
期待!!



わかさこども園

わかさこども園

調理室を増築し、保育室を増やす

1億933万円

肉



若桜町公民館

公民館費 (管理費)

耐震補強計画、実施計画を策定する

458万円



若桜学園

若桜学園管理費

14教室にエアコンを設置する

2450万円

第1回議会定例会

一目でわかる 審議結果

予 算	平成30年度若桜町一般会計予算 歳入歳出予算の総額を35億円とした。	可決
	平成30年度若桜町国民健康保険事業特別会計予算 歳入歳出予算の総額を4億293万円とした。	可決
	平成30年度若桜町介護保険事業特別会計予算 歳入歳出予算の総額を6億6010万円とした。	可決
	平成30年度若桜町後期高齢者医療特別会計予算 歳入歳出予算の総額を5765万円とした。	可決
	平成30年度若桜町簡易水道事業特別会計予算 歳入歳出予算の総額を1億9693万円とした。	可決
	平成30年度若桜町公共下水道事業特別会計予算 歳入歳出予算の総額を2億2691万円とした。	可決
	平成30年度若桜町農業集落排水事業特別会計予算 歳入歳出予算の総額を1億1920万円とした。	可決
	平成30年度若桜町赤松団地造成事業特別会計予算 歳入歳出予算の総額を387万円とした。	可決
	平成30年度若桜町財産区造林事業特別会計予算 歳入歳出予算の総額を1049万円とした。	可決
	平成30年度若桜町索道事業特別会計予算 歳入歳出予算の総額を2156万円とした。	可決
平成30年度若桜町住宅新築資金等貸付事業特別会計予算 歳入歳出予算の総額を180万円とした。	可決	
補 正 予 算	平成29年度若桜町一般会計補正予算（第6号） 2億3711万円を減額し、歳入歳出予算の総額を34億9487万円とした。	可決
	平成29年度若桜町国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号） 4237万円を減額し、歳入歳出予算の総額を4億8800万円とした。	可決
	平成29年度若桜町介護保険事業特別会計補正予算（第5号） 2309万円を減額し、歳入歳出予算の総額を6億2779万円とした。	可決
	平成29年度若桜町簡易水道事業特別会計補正予算（第4号） 17万円を減額し、歳入歳出予算の総額を3億6176万円とした。	可決
	平成29年度若桜町公共下水道事業特別会計補正予算（第2号） 7743万円を減額し、歳入歳出予算の総額を2億2178万円とした。	可決
	平成29年度若桜町赤松団地造成事業特別会計補正予算（第1号） 330万円を減額し、歳入歳出予算の総額を50万円とした。	可決
	平成29年度若桜町財産区造林事業特別会計補正予算（第2号） 480万円を減額し、歳入歳出予算の総額を177万円とした。	可決
	平成29年度若桜町索道事業特別会計補正予算（第2号） 139万円を減額し、歳入歳出予算の総額を8123万円とした。	可決
条 例	若桜町被災者住宅再建支援事業助成条例の一部改正について 鳥取県被災者住宅再建支援条例の改正に伴い条例の一部を改正するもの。	可決
	若桜町特別医療費助成条例の一部改正について 高齢者の医療の確保に関する法律並びに障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の一部改正に伴い、条例の一部を改正するもの。	可決
	若桜町後期高齢者医療に関する条例の一部改正について 高齢者の医療の確保に関する法律が新設されことに伴い、条例の一部を改正するもの。	可決
	若桜町国民健康保険条例の一部改正について 法律の一部が改正されることに基づき条例の一部を改正する。	可決
	若桜町指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準等を定める条例の制定について 介護保険法の改正に伴い、所要の条例を制定するもの。	可決

条 例	若桜町介護保険条例の一部改正について 高齢者福祉計画・介護保険事業計画の見直しに伴い、介護保険料等を改正するもの。	可決
	若桜町指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準等を定める条例の一部改正について 指定居宅サービス等の事業に関する基準等の一部改正に伴い、所要の改正を行うもの。	可決
そ の 他	公の施設の指定管理者の指定（若桜町立地域福祉センター・ドリーミー）について 若桜町立地域福祉センター・ドリーミーを社会福祉法人若桜町社会福祉協議会に指定管理者として指定するもの。	可決
	総合整備計画の策定について 必要とする経費の財源に辺地債を充てるため。	可決
	若桜町過疎地域自立促進計画の変更について 必要とする経費の財源に過疎債を充てるため。	可決
	鳥取市及び八頭郡若桜町における連携中枢都市圏の形成に係る連携協約の締結について 若桜町を含む一市四町及び新温泉町で構成される圏域で形成するもの。	可決
	鳥取市と若桜町との定住自立圏の形成に関する協定の廃止について 連携中枢都市圏への移行に伴い、協定を廃止するもの。	可決
	鳥取県行政不服審査会共同設置規約の変更に関する協議について 八頭環境施設組合が解散し、審査会を脱退したため。	可決
	若桜町副町長の選任について 若桜町副町長に盛田聖一氏が選任され同意した。	同意
若桜町監査委員の選任について 若桜町監査委員に山本安雄氏が選任され同意した。	同意	



賛否の分かれた議案

氏名	梶原明	君野弘明	青木一憲	山根政彦	山本安雄	小林誠	山本晴隆	中尾理明	前任孝行	結果
鳥取市及び八頭郡若桜町における連携中枢都市圏の形成に係る連携協約の締結について	○	○	○	○	○	○	○	×	○	可決

原案反対 中尾理明議員

本町は、連携協約締結により、圏域のビジョン全体に拘束されます。財政的にも中核市の鳥取に吸収され、行きつく先は、第二の平成大合併につながる恐れがあり、若桜の発展が阻害されかねないため。

原案賛成 前任孝行議員

他町と連携することで、今ある事業が深まってくると考える。
例えば、福祉・医療関係にしても若桜町単独で多様なニーズに対応することが難しくなっている。連携した地域の今ある施設を生かして、互いに助け合うべき。

第2回4月臨時議会

予算	平成30年度若桜町一般会計補正予算（第1号） 1億7656万円を追加し、歳入歳出予算の総額を36億7656万円とした。	可決
条例	若桜町課設置条例の一部改正について 商工観光施策の充実を図るため産業観光課を「にぎわい創出課」に、農林部門と建設部門を一本化し、町土整備課を「農林建設課」に改めるもの	可決
議案提	若桜町議会委員会条例の一部改正について 若桜町課設置条例の一部改正に伴い、常任委員会の所管の一部を改正するもの	可決

わたしの思い

このコーナーでは、町民の皆さんからの御要望や率直なご意見を紹介いたします。



若桜を楽しんで

太田 義人さん
(西 町)

若桜町観光協会の活動に携わっており、“多くの観光客に來町して楽しんでいただきたい”とスタッフと共に日々活動しております。

若桜町には、四季を通じて様々な観光地、イベントがあり、最近では若桜鉄道の観光列車「昭和」が注目されています。

私の理想とする若桜の観光は、「自然の恵みや、人と人との関わり」を体感していただき、その中で若桜に住みたいと思ってもらえるのが最上と考えます。

近年は、様々な形態の宿泊施設が誕生しています。地元の人とふれあいができ、安心して宿泊できる施設が若桜宿内であればと切望いたします。そして観光事業が人の移住定住につながればと願っています。

意見・写真をお寄せください

メール gikai@town.wakasa.tottori.jp

FAX 0858(82)2222

あとかぎ

編集委員として、慣れないことだらけの中、議会の内容をいかに町民の皆様にわかりやすく伝えることができるか、との思いだけで作成作業を進めてまいりました。無事に議会だよりが発行できたことは、関わる皆様の協力があったからこそです。ご協力頂いた皆様に深く感謝申し上げます。今後とも初心を忘れず、皆様にわかりやすい紙面作成に努めていきたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。

(記 梶原 明)



議会だより調査特別委員会

委員長 梶原 明

副委員長 君野 弘明

委員 山本 安雄

委員 青木 一憲

議長 川上 守